



のりお通信

激甚化する気象災害への対応！

皆様お元気でしょうか。この市政報告をお読みいただきありがとうございます。

私も、皆様の激励をいただいて務めてまいりました議長職を、昨年8月で無事終えることができました。新たな任期におきましては、会派の会長となり、改選後の議会において代表質疑を行うなど、日々奮闘しております。



代表質疑

台風災害から見た課題

今回は、昨年の台風災害から見た課題についてレポートします。台風15号、19号、21号に伴う大雨などの自然災害が日本列島を襲い、各地に大きな爪痕を残しました。特に台風19号は、東日本大震災を上回る14都県391市区町村に災害救助法が適用される広域災害となりました。

◆待ったなしの治水対策

仙台市においても、課題が浮き彫りになりました。七北田川と旧策川が4年前と同じような場所で氾濫するとともに、内水氾濫や排水不良による浸水被害が多数発生しました。治水対策には時間が掛かると言われますが、年々激甚化する気象災害への対応に猶予はありません。国、県と連携し早急な取り組みを行う必要があります。

◆市施設の危機管理

宮城野区役所では、地下電気設備が浸水し電源を喪失し、区の災害対策本部の機能が一時麻痺しました。その後も、区役所設備の復旧に長時間を要し、市民生活に支障をきたしています。災害対策本部の電源喪失は大失態です。速やかに、市のすべての施設について点検を行い、止水対策や排水対策を講ずるべきです。

◆民有地の宅地防災

水害だけでなく、土砂災害も多数発生しました。造成時期の古い住宅地の擁壁や法面の崩落です。市有施設（法面等）の早期の復旧はもちろんですが、問題は、民有地の擁壁や法面への対策です。支援制度の創設など、宅地防災の観点から積極的な取り組みが求められます。



復旧が進む市道法面崩壊現場

激甚化・広域化する気象災害への対応は喫緊の課題です。産学官民、自助、共助、公助、伝統的技術、最新技術等を総動員して「束になって」対抗していくことが不可欠です。

本年も、市民の皆様の安全・安心を最優先と捉えながら、活力ある仙台の実現に取り組んでまいります。皆様のご指導ご鞭撻をお願いいたします。